

平成25年度 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第3回アドバイザー会議 議事概要

平成26年2月14日(金) 14:10~16:50
(内地)TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
(現地)小笠原村情報センター

- 1 傘山、躑躅山ルートにおけるオガサワラノスリのモニタリング結果について
 - ・ 参考資料によりルートの利用者数が平成23年と比べかなり増加しているが、ノスリの目撃頭数が急激に減少していないことが分かるので、今後もこのような資料を示すべき。
- 2 小笠原諸島兄島グリーンアノール対応について
 - ・ グリーンアノールの拡散防止柵の設置に際して伐採した固有種等のモニタリングの結果を報告すべき。
- 3 公益的機能維持増進協定の取組について
 - ・ 国有林が外来種駆除に取り組んでも、介在する民有地で行わなければ、そこが種子供給源になることを課題と認識し、取り組んで欲しい。
- 4 オガサワラグワの植栽について
 - ・ オガサワラグワを本格的に復活させるためには、減少した原因を把握した上で、対策を講じるべきであり、植栽後のモニタリングによって原因を究明して欲しい。
 - ・ 植栽したオガサワラグワの生育環境と自然に生えているオガサワラグワの生息環境を比較し、把握することで、リスク回避につながるのではないか。
 - ・ オガサワラグワの野生個体群が相当減少しており、残された時間は少ないと考えられるので、残っている野生個体群を保全し、回復させるため、域内保全についても検討すべき。
- 5 平成25年度事業概要について
 - ・ 残置木有効活用調査について、モクマオウを内地に移動することは、小笠原から内地に外来種を持ち込むことになるので、それを防ぐための措置を検討すべき。
 - ・ 木炭のニーズを確認した上で使い方を啓発していくべき。
- 6 平成26年度主要事業(予定)について
 - ・ 広報用看板の内容については、アドバイザーの意見を聞いてはどうか。設置場所を踏まえて検討するので、看板をどこに設置するかということも教えて欲しい。
 - ・ 兄島のオガサワラハンミョウの生息地周辺の駆除について、スピード感をもって対応して欲しい。

7 プラナリア対策について（活用案件）

- ・ 現時点で大事なのはどこに柵をつくれるかということであり、プラナリアの侵入状況によっては計画自体を見直す必要がある。
- ・ 本箇所は父島における陸産貝類の生育箇所の最後の一か所であり、遺産価値が父島からなくならないようスピード感をもって積極的に対応すべき。特に伐開については、事前に相談する必要があるが、最優先で陸貝を守るために在来種で希少性が高くないものは伐開も仕方がないという考えが必要ではないか。